

高収益栽培！ 特産物の 育成で 村おこし

山フキの収穫作業（ハウス栽培）



9 山フキの栽培 （後編）

栽培方法

●種株（根株）の確保と増殖

山フキは、地域の気象条件や土質によって、芳香や葉柄の色沢、そして食味も異なります。種株を山どりの生育期にその形態を十分観察しておいてから、最もよい種株を掘り取ることが大切です。また、先進地から種株を購入する場合でも、前年度に現地観察をして確認しておく必要があります。

よい種株が確保できれば、これを計画的に自家増殖していく方法が最もよいとされています。1年間で約3倍に増殖するので、初年度に1a分確保すれば、翌年には3aとなり、翌々年には約10a分の種株が確保で

きます。

●植え付け方法

傾斜畑を利用して栽培する場合と、果樹の間作として栽培する場合では、植え付け方法が異なります。ここでは傾斜畑の場合を取り上げます。

畝幅120～150cm、株間15cm程度とし、先端に芽のあるものを2～3節に切る。

畝に浅く条をつけ、条に元肥を施し、土とよく混合する。

その上に15cm間隔に芽が上を向くよう苗を配置し、芽の先端が少し土から出るように浅く覆土する。覆土が終われば、乾燥防止のために落ち葉が稲わらで覆う。

●施肥と除草

施肥については有機質肥料（鶏ふ

んモミ殻堆肥や落ち葉）などを中心

に土づくりを考えていくことが大切

で、化学肥料に頼ってはいけません。

また、雑草の防除については、敷きわらや落ち葉の被覆を十分にすれば雑草の心配はほとんどないので、

除草剤の使用はなるべく避けてください。除草剤の使用は、地下茎の発育に大きく影響するので特に注意が必要です。

山フキ栽培では三要素成分（N、

P、K）が愛知早生フキの約5分の

1と少ない肥料で栽培されています。これは、山フキがもともと山野に自生しているため、無肥料でも旺盛に生育し、多肥栽培は適合しないことが分かってからです。施肥設計

については、第1表を参照してくだ

さい。

●病害虫防除

山フキの露地栽培は、愛知早生ブキや水フキ、秋田フキなどと違って病害虫の発生はあまり見られません。病害や高温障害、または干ばつによって予想外の発生を見ることがあります。山フキの病害虫防除は耕種的防除を重点的に行い、薬剤防除はなるべく避けるようにしたいものです（第2表）。

●その他の管理ポイント

山フキの栽培管理で重要な増収のポイントは、敷きわら（落ち葉の被覆）と灌水になります。山フキは乾燥に最も弱く、灌水は地下茎の浮き上がりを防ぐ効果があります。さらに、地下茎の浮き上がりについては、



元・農業改良普及員
（サンショウ研究家）
ないとう かずお
内藤 一夫

この連載では、中山間地でも、比較的手がかからず市場出荷においても競合が少ない品目の栽培を経営の参考に毎回解説していただきます。

毎年1回、肥料を施用した後に10a当たり4～10tの用土を厚さ2cmに被覆すれば、その効果が高いといわれています。

●収穫

一般に8月下旬に植え付けた場合、翌年の春から収穫することができ、収量は少なく、本格的な収穫は翌々年の春からです。10a当たりの収量は約800～1000kgとなります。収穫は、朝5～10時ごろまでの、直射日光の弱い時間帯に行います。これはフキの萎れを防ぎ、品質の低下を抑えるためです。

抜き取ったフキは、一握りの大きさにまとめて止め金などで結束し、葉がついたままビニールの大袋に入れて作業場まで運び、そこで葉を取り出荷規格によって選別、結束、箱詰め作業を行います(第3表)。山フキの生育期は、春(3～5月)と秋(9～11月)の2周期になっています。したがって、秋でもかなり収穫することができ、春に比べて肉質がたく、品質が劣ります。また、秋どりをすると翌年春の生育と収量に大きな影響が出るので、一般的には秋の収穫はほとんど行われていません。経営収支については第4表を参照してください。

第1表 施肥設計

(kg/10a)

肥料名	施用量	元肥量	追肥		三要素成分			摘要
			1	2	N	P	K	
落ち葉	3,000	3,000	-	-	-	-	-	8月上旬施用
鶏ふんモミ殻堆肥	1,000	1,000	-	-	3	7	4	8月上旬施用
苦土石灰	60	60	-	-	-	-	-	8月上旬施用
有機合成	100	40	30	30	9	6	7	元肥は8月上旬
計	4,160	4,100	30	30	12	13	11	

注) 落ち葉は、ナラやクヌギの葉を重点的に使用する。鶏ふんモミ殻堆肥は、鶏ふん(粉状)100kgとモミ殻900kgに発酵の資材を利用して堆肥をつくる。有機合成結合肥料はN=9、P=6、K=7%の20kg袋入りを使用。追肥の第1回は12月、第2回は翌春の2月とする。



山フキは収穫後、長さ別に1束210g程度に結束して出荷する。

第2表 フキの病害虫防除

(2007/6/11現在)

病害虫	防除方法	摘 要
白絹病	- 被株体は早期に発見し、発見次第、圃場外へ持ち出して処分する。 - 田輪換を図る。 - 植え付け時にバリダシン液剤5に30分間、種茎を浸漬するとともに発病を認めたら3ℓ/m²(800倍、収穫の7日前まで5回以内)を灌注する。また、定植時に以下のいずれかの薬剤を土壌灌注する。バシタック水和剤75(1,000～1,500倍、2～3ℓ/m²を定植時に1回) リゾレックス水和剤(1,000倍、株元灌注は3ℓ/m²を収穫の21日前まで1回以内)	高温多湿が続くと発生が多い。灌注の際には地際部にもよくかかるように注意する。バリダシン液剤5は、種茎浸漬処理と灌注を組み合わせる使用。
灰色かび病	- 被株体を圃場外へ持ち出し処分する。 - 発病を認めたら、スミブレンド水和剤(1,500倍、収穫の14日前まで2回以内)を散布する。	
半身萎凋病	- 連作を避け、田輪換を図る。 - 種株は発病の見られない圃場の健全株から採取する。 - 夏季高温時に太陽熱利用による土壌消毒を行う。	本病は土壌伝染および種茎伝染する。
ウイルス病	- ウイルス病が発生した株は廃棄し、種株として用いない。 - アブラムシ類の防除に努める。	
フキノメイガ	バダン水溶剤(1,000倍、収穫の7日前まで2回以内)	
アブラムシ類	- ハウスでは開口部を寒冷紗で被覆する。 - 圃場内や周辺部の除草を徹底する。 - 発生を認めたら、アドマイヤーフロアブル(4,000倍、収穫の7日前まで2回以内)を散布する。	ウイルス病を媒介する。
タバココナジラミ	- 収穫後の作物の残りがすは処分する。 - ハウスでは開口部を寒冷紗で被覆する。 - 発生を認めたらトレボン乳剤(1,000倍、収穫の14日前まで3回以内) - 圃場内や周辺部の除草を徹底する。アプロード水和剤(1,000倍、収穫の21日前まで3回以内)	アプロード水和剤はタバココナジラミ類の幼虫が対象。

ご使用の際は、必ず登録の有無や使用方法をご確認ください。

第3表 山フキの出荷規格

等級	選別内容	
2L	35～40cm未満	2カ所止め
L	30～35	1カ所止め
M	25～30	1カ所止め
S	20～25	1カ所止め
2S	15～20	1カ所止め

注) 1束210g×25個入り=5,250gダンボール箱詰め(6kg箱)

第4表 山フキ栽培の経営収支例

項 目	金額ほか
生産量(kg)	1,000
単価(円)	610
粗収入(円)	610,000
経営費(円)	215,550
所得(円)	394,450
所得率(%)	64.7
労働時間(時/10a)	200
1時間当たりの労働報酬(円/時)	1,972

注) 10a当たり、傾斜畑での露地栽培。経営費は、種苗費、肥料、農薬、出荷容器、運送費、市場および農協手数料など。